

## 令和3年度2学期終業式 校長講話

令和3年（2021年）12月24日  
長野県蓼科高等学校長 宮澤和人

みなさんこんにちは。2学期はクリスマスイブの今日で終わりになります。8月から始まった一番長い学期である2学期。コロナ禍で大変だった8月の学期明けを思い返すと、ずいぶん昔のことのよう感じますね。こうして私も1日1日最善を尽くして皆さんとともに生活してきました。

この間、世の中は様々なことがありました。9月には東京パラリンピックがオリンピックに引き続き開催され、無観客だったのですが、多くの感動が生まれました。政治では菅内閣から岸田内閣が誕生し、10月の衆議院議員選挙では自民党が単独過半数を獲得しました。11月は、なんとといっても大谷翔平選手がメジャーリーグで最優秀選手に選ばれたことが印象に残っています。アメリカで最優秀ということは、世界でナンバーワン選手ということです。これはどれほど凄いことか皆さんもわかると思います。

また、校内に目を向けてみますと、9月以降デルタ株の感染者が減少してきたことにより、10月以降行事が復活してきたこと、代替ポプラ祭、強歩大会、秋季クラスマッチができるようになったことなど、大変うれしいことが続きました。そして、11月25日には藤田雄一郎先生の講演会と先日の劇団わらび座による「松浦武四郎」のミュージカルが復活公演できたことも皆さんの記憶に新しいうれしい出来事でした。

さて、1週間前のここで、松浦武四郎のミュージカルの前に私はあいさつしましたが、その時皆さんにある問いかけをしたことを覚えているでしょうか？ 松浦武四郎は記録を残すだけの普通の探検家ではなく、何かほかの探検家と違う所があること。そこに松浦武四郎が今なお多くの人から敬愛を受けている理由がある。それは何でしょうか？ ミュージカルを見て考えてください、ということでした。

もうみなさんはお判りでしょう。彼が今なお尊敬されているところ、それはアイヌの人々の心の気高さに感動し共感し、調査探検とともにアイヌの人に寄り添い、生きる環境を守ろうと命を張った点です。

同時にこの物語から多くのことを学び取ることができました。私は特に二点感じました。

一つは心を開きコミュニケーションをとることの大切さです。特に4月の新学期には皆さんも経験あるでしょう。勇気をもって新しい人に話しかけ、相手も笑顔で話を返してもらった時の喜びを。挨拶をして返してもらった時のうれしさを。

二つ目は、他人の価値観を理解し、尊重することの大切さです。武四郎は他の日本人が「アイヌはバカだ」という言葉には耳を貸さず、曇りのない目で相手を見て、彼らの神を

敬う崇高な精神に心を打たれます。自分と違う相手をさげすんで悪口を言っても、そこには憎しみしか生まれません。逆に相手の良い点を見つけて、尊重することができれば、もっともっと私たちの身の回りは過ごしやすい環境になると思います。

12月に入り、行事だけではなく日常生活の中でもうれしいことがありました。それは、新生徒会の皆さんが昇降口に立ち挨拶運動を行ったことです。田村生徒会長から始まった挨拶運動は今の3年生へ、そして現生徒会に受け継がれていることに感動を覚えました。3年生の元生徒会役員に訊いてみると、大変うれしいという言葉が返ってきました。先にお話した、心を開きコミュニケーションをとることも、他人の価値観を理解し尊重することも、まずは挨拶から始まります。私は3年間朝の昇降口に立っていますが、一昨年より昨年の方が、昨年より今年の方が皆さんは良い挨拶を返してくれます。挨拶だけではありません。皆さんがそれぞれ今までの1年を振り返り、良い行いをして、この学校をもっともっといい学校にしていきたいと思います。

また、コロナ感染症が少なくなったといっても、感染者が増加することを念頭に、今までの経験を賢く生かし油断なく感染防止対策を続けてください。来年皆さんが元気な姿で登校してくるのを待っています。良い年をお迎えください。 終わります。